

東洋史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
東洋史概論	中国史概説Ⅰ	2	大野 晃嗣	3	火	2
東洋史概論	中国史概説Ⅱ	2	大野 晃嗣	4	火	2
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	3	月	5
東洋史基礎講読	『資治通鑑』講読	2	川合 安	4	月	5
東洋史各論	六朝時代の諸問題	2	川合 安	5	金	2
東洋史各論	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	6	金	2
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	火	5
東洋史各論	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	火	5
東洋史各論	清朝とモンゴル	2	岡 洋樹	5	水	4
東洋史各論	中国古代都城の設計と思想	2	佐川 英治	集中(6)		
東洋史各論	17世紀のマカオとアジア	2	中砂 明德	集中(5)		
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅰ	2	川合 安	5	金	4
東洋史演習	『晋書』載記の研究Ⅱ	2	川合 安	6	金	4
東洋史演習	明清史料研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	5	水	5
東洋史演習	明清史料研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	6	水	5

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester : 3, 単位数 : 2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LB32203, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中国史概説 I

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国明王朝 (1368-1644) の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course helps students learn the history of the Ming Dynasty (1368-1644) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems remain in various forms to the present-day China.

5. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国明王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Ming dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 明王朝成立史 (1)
4. 明王朝成立史 (2)
5. 明王朝成立史 (3)
6. 官僚制度—中央官制 (1)
7. 官僚制度—地方官制 (2)
8. 明代中期の歴史 (1)
9. 明代中期の歴史 (2)
10. 例の成立 (1)
11. 例の成立 (2)
12. 明末政治史 (1)
13. 明末政治史 (2)
14. 明清交替の歴史
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席点 (30%) とレポート (70%)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史概論／ Oriental History (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LB42203, 科目ナンバリング：LHM-HIS203J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中国史概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Chinese History

3. 授業の目的と概要：

中国清王朝（1616-1912）の成立から滅亡までの歴史を学びつつ、官僚制度、科挙制度といった中国史を理解する上で必要な項目について、漢文史料を使用しながら理解を深める。そしてそれらの制度が様々な形で現在にまで残っていることを知る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course helps students learn the history of the Qing Dynasty (1616-1912) from the formation to the destruction, deepen understanding the bureaucracy system and civil examination system at the time. And, moreover, students consider that these systems remain in various forms to the present-day China.

5. 学習の到達目標：

中国史を理解する上で必要な官僚制や政治制度についての基礎知識を得ながら、特に中国清王朝の歴史について理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course helps students learn basic knowledge about bureaucracy and political system which is necessary for understanding Chinese history so that students can acquire abundant knowledge the history of Qing dynasty and the system.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. ガイダンス
2. 中国に関する基礎知識
3. 清王朝成立史（1）
4. 清王朝成立史（2）
5. 康熙・雍正・乾隆時代史（1）
6. 康熙・雍正・乾隆時代史（2）
7. 康熙・雍正・乾隆時代史（3）
8. 清朝文書行政（1）
9. 清朝文書行政（2）
10. 官僚制度－中央官制
11. 官僚制度－地方官制
12. 清朝後期史（1）
13. 清朝後期史（2）
14. 清朝の滅亡
15. まとめと筆記試験

8. 成績評価方法：

出席点（30%）とレポート（70%）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

予習が必要なプリントについては随時宿題形式で指示を行う。また、続き物の講義であるので、復習を行い知識を確認し、次の授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB31501, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N < R e a d i n g >

3. 授業の目的と概要：

中国史研究（特に前近代）には、中国古典文（漢文）で書かれた史料（歴史資料）の読解が必須である。そのための基礎訓練の材料として『資治通鑑』隋紀（隋の時代について書かれた部分）の隋代末期の記述を取り上げる。受講者は、8 回目の授業以降、全員、当該部分の書き下し文と現代日本語訳を準備し、発表する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian” (資治通鑑:literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”).

5. 学習の到達目標：

中国古典文（漢文）で書かれた史料を、辞書を使いこなして読解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』について
- 2、隋代史概説
- 3、漢文語法概説
- 4、漢和辞典（小型のもの）を使ってみる
- 5、『大漢和辞典』、『漢語大辞典』を使ってみる
- 6、返り点、送り仮名をつけて漢文を読んでみる
- 7、『資治通鑑』の訓読、現代日本語訳の実例
- 8、『資治通鑑』隋紀講読（1）李淵、長安入城
- 9、『資治通鑑』隋紀講読（2）長安占領後の措置
- 10、『資治通鑑』隋紀講読（3）李靖、李世民的幕僚となる
- 11、『資治通鑑』隋紀講読（4）王世充と李密の抗争
- 12、『資治通鑑』隋紀講読（5）李密、翟讓を殺害
- 13、『資治通鑑』隋紀講読（6）李淵、代王を擁立
- 14、『資治通鑑』隋紀講読（7）李密の動向
- 15、授業の総括と試験

8. 成績評価方法：

小テスト（1～7 回の授業時に実施）20%、発表内容（8～14 回）30%、試験（最終回）50%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：小川環樹・西田太一郎『漢文入門』（岩波書店「岩波全書」、1957 年）。

田中謙二編訳『資治通鑑』（筑摩書房「ちくま学芸文庫」、2019 年）。

ほかは、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

7 回目までの授業では、配布資料をよく読んで復習する。

8 回目以降の授業では、毎回、授業前に当該箇所の書き下し文と現代日本語訳とを準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史基礎講読／ Oriental History (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB41501, 科目ナンバリング：LHM-HIS209J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

『資治通鑑』講読

2. Course Title (授業題目)：

Z I Z H I T O N G J I A N (R e a d i n g)

3. 授業の目的と概要：

『資治通鑑』の読解を継続し、中国古典文(漢文)で書かれた史料を読解するためには、漢和辞典のみに依存した予習では限界があることを体得する。4 回目の授業以降、受講者は、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備し発表する。あわせて、関連史料や官職、制度等の調査結果についても報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to help students acquire the basic skills needed to read the Chinese classics as historical materials by reading “Zizhitongjian” (資治通鑑:literally “Comprehensive Mirror in Aid of Governance”).

5. 学習の到達目標：

学部演習において最低限必要な、史料読解のための基礎学力を身につけ、手持ちの漢和辞典のみならず、東洋史研究室所蔵の大型辞書や関連の基本的史料などを自由自在に使いこなせるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop the basic ability to read the Chinese classics as historical materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、『資治通鑑』隋紀・唐紀の関連史料
- 2、隋唐時代の官職、制度等の調べ方
- 3、隋唐史関係研究論文の調べ方
- 4、『資治通鑑』隋紀講読 (1) 李淵と薛挙との抗争 (1)
- 5、『資治通鑑』隋紀講読 (2) 李淵と薛挙との抗争 (2)
- 6、『資治通鑑』隋紀講読 (3) 李淵と薛挙との抗争 (3)
- 7、『資治通鑑』隋紀講読 (4) 屈突通、李淵に降伏 (1)
- 8、『資治通鑑』隋紀講読 (5) 屈突通、李淵に降伏 (2)
- 9、『資治通鑑』隋紀講読 (6) 王世充と李密との抗争
- 10、『資治通鑑』隋紀講読 (7) 李淵、巴蜀を平定
- 11、『資治通鑑』唐紀講読 (1) 隋唐禅譲革命の開始
- 12、『資治通鑑』唐紀講読 (2) 洛陽をめぐる王世充と李密との抗争 (1)
- 13、『資治通鑑』唐紀講読 (3) 洛陽をめぐる王世充と李密との抗争 (2)
- 14、『資治通鑑』唐紀講読 (4) 楊汪・竇建徳らの動向
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

小テスト (1～3 回、最終回の授業時に実施) 20%、発表内容 (4～14 回) 80%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

10. 授業時間外学習：

4 回目の授業以降、受講者は授業前に、全員、書き下し文と現代日本語訳を準備するほか、東洋史研究室所蔵の関連史料についても調査しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

東洋史基礎講読 (3 セメスター) と連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55204, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

六朝時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of The Six Dynasties Time

3. 授業の目的と概要：

中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers the history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties in Chinese history.

5. 学習の到達目標：

六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Six Dynasties time.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、六朝時代の概略
- 2、秦漢古代帝国の概要
- 3、九品官人法の制定と魏の貴族
- 4、九品官人法の制定と西晋の貴族
- 5、東晋の貴族
- 6、宋・齊の貴族
- 7、宋・齊の貴族的官制
- 8、宋・齊の新興貴族
- 9、梁の武帝の改革と貴族
- 10、北魏前期の鮮卑貴族と漢人貴族
- 11、北魏・孝文帝の改革と貴族
- 12、北魏末期の貴族
- 13、北齊の貴族
- 14、北周の貴族
- 15、総括と展望

8. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート70%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布

参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003年）。ほかは、講義中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等を参照して調査し、それでもわからない点については、授業時間中でも質問を受け付ける。また、授業時間外に質問してもよい。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65203, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

隋唐時代の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Subjects of Sui and Tang dynasties

3. 授業の目的と概要：

隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course covers the political history of Sui and Tang dynasties (589-907) to help students understand the characteristics of the Sui and Tang dynasties in Chinese history.

5. 学習の到達目標：

隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Sui and Tang dynasties.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
- 2、隋王朝の政治
- 3、貞観の治
- 4、則天武後の時代
- 5、玄宗の時代
- 6、安史の乱
- 7、安史の乱後の情勢
- 8、徳宗の時代
- 9、憲宗の時代
- 10、甘露の変
- 11、武宗の時代
- 12、武宗の廃仏
- 13、宣宗の時代
- 14、黄巢の乱
- 15、総括

8. 成績評価方法：

小レポート（毎回の授業時に提出）30%、期末レポート 70%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

授業で配布した資料に目を通し、理解できた点、理解できなかった点を整理しておく。理解できなかった点については、参考書等で独力で調査し解決することを試み、それでも不明な点は、随時質問する。授業時間中に質問してもよい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LB52503, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国における社会と官僚制度・教育制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

JIE ZHAO 著” BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644” を題材にして、明朝時代の江南社会における知識人と商人の交流について理解を深める。同時に、近世中国王朝の官僚機構と教育システムについて基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students read the ”BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China’s Economic Heartland, 1500-1644” by JIE ZHAO and consider about the exchange between intellectuals and merchants in JiangNan society during the Ming Dynasty. And students learn basic knowledge about the bureaucracy and education system of the early modern Chinese dynasty. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題 Iー (1) 及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題 Iー (2) 及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題 Iー (3) 及び社会構造の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題 Iー (4) 及び社会構造の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題 Iー (5) 及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題 Iー (6) 及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題 Iー (7) 及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題 Iー (8) 及び科举制度の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題 Iー (9) 及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題 Iー (10) 及び人事制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題 Iー (11) 及び人事制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題 Iー (12) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (1)

14. 中国近世史の諸問題 Iー (13) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (2)

15. 中国近世史の諸問題 Iー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:”○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

Semester : 6, 単位数 : 2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LB62502, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：

近世中国における社会と官僚制度、教育制度についての基礎的知識を身につけると同時に、英語で書かれた中国史の研究論文の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国の社会と官僚制度、教育システムについて基本的な知識を学ぶ。後期も前期に引き続いて、JIE ZHAO の "BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China's Economic Heartland, 1500-1644" を読む予定である。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research. In the second semester, we plan to read "BRUSH, SEAL and ABACUS-Troubled Vitality in Late Ming China's Economic Heartland, 1500-1644" by JIE ZHAO, following the first semester. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題Ⅱー (1) 及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題Ⅱー (2) 及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題Ⅱー (3) 及び商業史の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題Ⅱー (4) 及び商業史の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題Ⅱー (5) 及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題Ⅱー (6) 及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題Ⅱー (7) 及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題Ⅱー (8) 及び行政区画の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題Ⅱー (9) 及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題Ⅱー (10) 及び科举制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題Ⅱー (11) 及び科举制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題Ⅱー (12) 及び社会構造と科举制度に関する討論

14. 中国近世史の諸問題Ⅱー (13) 及び経済構造と科举制度に関する討論

15. 中国近世史の諸問題Ⅱー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：岡 洋樹 (非常勤講師)

講義コード：LB53401, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

清朝とモンゴル

2. Course Title (授業題目)：

The Qing and the Mongols

3. 授業の目的と概要：

本講義では、中国最後の王朝であり、17 世紀にマンジュにより建国された大清国のモンゴルにおける統治の歴史的性格について考察することを通じて、清朝の統治が、中国王朝や、北元末期のモンゴル遊牧民統治の系譜を合わせもつものであることを論じる。またこれにより、今日の中国にも面影を残す多文化・多民族性の歴史的な文脈を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, the historical nature of the Qing's rule over mongolian nomadic society is discussed. The Qing or Daicing gurun was China's last dynasty established by the Manchu in the beginning of the seventeenth century. This dynasty's multicultural nature was in its historical context of the North Asian nomadic states as well as in the one of Chinese dynastic tradition. Through this class, students are expected to understand the historical multiplicity of China's statecraft.

5. 学習の到達目標：

受講者は、この講義を通じて以下の論点について理解を得る。

1. モンゴル史上における清朝統治の歴史的な文脈。
2. モンゴルに対する清の統治に組み込まれた遊牧国家政体の特徴
3. 近代史における清朝の多文化統治の遺産

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students are expected to understand these points presented below.

1. The historical context of the Qing's rule over Mongolia in Mongolian history.
2. The characteristics of nomadic statecraft which was incorporated into the Qing's rule over Mongolia. Leagues, Banners, Noble princes, Military style organization of nomadic society etc.
3. The heritage of the multicultural rule of the Qing in the modern history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義では、以下の内容について論じる。

1. 清朝によるモンゴル征服の過程
この部分では、清朝によるモンゴル征服の政治的過程を概観する。その際とくに 17 世紀前半における内モンゴル地域の征服過程に焦点を当て、清の征服がモンゴルの政治体制の特徴に深く規定されながら進行したことを論じる。
2. 清朝の「外藩」体制
この部分では、清の「外藩」と呼ばれる統治システムについて概観する。その際、清朝統治のいくつかの要素に着目する。すなわち合議体としての盟 (cighulghan)、統治機構としての旗 (qosighu) と佐領 (sumu) 及びザサグ (旗長)
3. 清朝統治下のモンゴル人の生活
この部分では、清代の普通のモンゴル人に生じた生活の変化のいくつかについて論じる。特にこの問題にアプローチする方法として、18 世紀の家畜窃盗に関わる満文史料の分析から得られる知見を用いる。

8. 成績評価方法：

レポート 50%、出席 50%

9. 教科書および参考書：

参考書

- 小松久男・荒川正晴・岡洋樹編『中央ユーラシア研究入門』東京；山川出版社、2018 年
小松久男編『中央ユーラシア史 新版世界各国史 4』東京；山川出版社、2000 年
護雅夫・岡田英弘編『中央ユーラシアの世界 民族の世界史 4』東京；山川出版社、1990 年
岡洋樹『清代モンゴル盟旗制度の研究』東京；東方書店、2007 年
宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』東京；刀水書房、2002 年
萩原守『清代モンゴルの裁判と裁判文書』東京；創文社、2006 年

10. 授業時間外学習：

受講者は、授業時間外にシラバスに挙げた参考文献や講義の中で紹介する文献を読み、講義の内容の理解に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：集中 (6), 単位数：2

担当教員：佐川 英治 (非常勤講師)

講義コード：LB98810, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

中国古代都城の設計と思想

2. Course Title (授業題目)：

Capital City Planning in Ancient China and Its Underpinning Ideas

3. 授業の目的と概要：

この授業では、東アジア都城の模範となった唐の長安城のプランがどのようにして生まれたのかを歴史的に考察する。唐の長安城のプランは日本の平城京や渤海の上京に採用されたために、中国の典型的な都城プランと思われるが、実はそのプランは伝統的な都城のプランとは大きく異なるものであった。ではそれはいつどのようにして生まれたのか。このことは前世紀の初めから研究者によって繰り返し問われてきたことである。ただし、従来の研究ではこの問題を都城の外形的特徴から考察してきたために、見る側の主観が入りやすく、何に注目するかに

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Chang'an is the capital of the Tang dynasty, which became a model for other capital cities in East Asia. This lecture examines in historical perspective how the city plans for Chang'an of the Tang dynasty had been formed. In this lecture, I make use of the latest archaeological findings to reconstruct the capital cities in ancient times, summarizing the debates on the capital cities of each period in terms of philology and paying attention to what the people of each period set the starting point at when they designed their capital cities. I also show how the starting point in the planning of capital cities shifted from the imperial ancestral temple to the capital's southern suburbs and then to the Circular Altar between suggests that the focus of imperial sacrifices gradually shifted from the worship of imperial ancestors to the worship of Heaven.

5. 学習の到達目標：

1. 文献資料と考古資料を用いた中国古代都城の復元方法について習得する。
2. 漢代から唐代にかけての皇帝祭祀と政治思想について理解する。
3. 北朝における遊牧文化の影響について理解する。
4. 日本の藤原京や平城京が中国の都城から受けた影響について理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

1. Students learn about how to reconstruct the capital cities in ancient China using archaeological and historical resources.
2. Students understand the history of the emperor worship and political thought from the Han Dynasty to the Tang Dynasty.
3. Students understand the influence of nomadic culture in the North Dynasties.
4. Students understand the influence that the capital city planning of China had on Fujiwarakyo and Heijokyo in Japan.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式でおこなう。

1. ガイダンス
2. 『周礼』考工記
3. 始皇帝の都城
4. 前漢長安城
5. 後漢洛陽城
6. 曹魏鄴城
7. 魏晉洛陽城
8. 南朝建康城
9. 北魏平城
10. 北魏洛陽城
11. 北齊鄴城と北周長安城
12. 隋唐長安城
13. 新羅王京
14. 日本藤原京と平城京
15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験によって評価する。

9. 教科書および参考書：

参考書

佐川英治『中国古代都城の設計と思想』勉誠出版、2016年

窪添慶文『魏晋南北朝史のいま』勉誠出版、2017年

1 0. 授業時間外学習：

予習として『宮崎市定全集 7』（岩波書店）の「六朝時代華北の都市」「漢代の里制と唐代の坊制」、楊寛『中国都城の起源と発展』（学生社）、陳寅恪『隋唐制度淵源略論稿』（商務印書館）の「都城」を読んでおくことが望ましい。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

科目名：東洋史各論／ Oriental History (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：中砂 明德 (非常勤講師)

講義コード：LB98811, 科目ナンバリング：LHM-HIS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

17 世紀のマカオとアジア

2. Course Title (授業題目)：

Macau and Asia in the 17th Century

3. 授業の目的と概要：

本講義では、16 世紀にポルトガル人の居住地となったマカオが、17 世紀のアジア・ヨーロッパにおける変動（明清交代、日本の鎖国、オランダ・イギリスのアジア進出、ポルトガルのスペインからの独立等）により、どのように変容していったかを理解してもらうとともに、マカオとかかわった諸地域の状況にも言及することで、17 世紀の東・東南アジアの変化の性格について考察する手がかりを提供することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers the history of transformation of Macau, which became a Portuguese settlement in the 16th century, by changes in Asia and Europe in the 17th century (such as the transition from Ming to Qing, the isolation of Japan, Dutch and English advance into Asia, and the independence of Portugal from Spain), and provides a clue to study the nature of change in East and Southeast Asia in the 17th century, by referring to the situation in various regions related to Macau.

5. 学習の到達目標：

中国にとってもヨーロッパにとっても周縁であるマカオの歴史を見ることで、周縁からの歴史を見る視点を養うことができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Looking at the history of Macau, which is a periphery for both China and Europe, can provide a perspective on history from the periphery.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. マカオ研究の現状
2. 16 世紀のマカオ
3. オランダ人の来航
4. マカオの日本人
5. マニラとの関係
6. オランダ人の来襲
7. 日本での殉教
8. 砲兵隊の北京行き
9. 東南アジアへの布教
10. 日本の鎖国
11. ポルトガル独立の余波
12. オランダ人の朝貢
13. ポルトガル人の朝貢
14. 清朝人から見たマカオ
15. イギリス人、フランス人の来航及び全体のまとめ

8. 成績評価方法：

出席・授業への取り組み 20% 課題レポート 80%

9. 教科書および参考書：

参考書：岡美穂子『商人と宣教師 南蛮貿易の世界』東京大学出版会、2010。Charles Boxer, Fidalgos in the Far East, Oxford University Press (2nd Revised), 1969

10. 授業時間外学習：

配布されるプリントにより授業内容を復習し、疑問点を翌日の授業時に質問すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

必要に応じてプリントを配布する。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB55404, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究 I

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

五胡十六国時代の漢文史料、『晋書』載記を読む。受講者は、5 回目の授業以降、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討し、その結果を発表する。このような作業を通じて、漢文史料読解—研究の手続きを体得し、漢文読解能力の向上を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記: records of Wu Hu [五胡: The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書: History of Jing) .

5. 学習の到達目標：

中国古代・中世の漢文史料を読解し研究するための基本的手続きを理解できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for research.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

『晋書』巻 104 石勒載記上を読み、関連する歴史的事項を調査する。

- 1、ガイダンス、『晋書』載記について
- 2、五胡十六国時代の概略
- 3、『晋書』載記の関連史料
- 4、『晋書』載記読解の实例
- 5、『晋書』石勒載記上を読む (1) 石勒の生い立ち
- 6、『晋書』石勒載記上を読む (2) 并州の飢饉と石勒
- 7、『晋書』石勒載記上を読む (3) 石勒、群盗となる
- 8、『晋書』石勒載記上を読む (4) 石勒、汲桑の部下となる
- 9、『晋書』石勒載記上を読む (5) 石勒、劉淵に帰服
- 10、『晋書』石勒載記上を読む (6) 劉淵配下としての石勒の活躍
- 11、『晋書』石勒載記上を読む (7) 劉淵の即位と石勒
- 12、『晋書』石勒載記上を読む (8) 石勒と王浚との抗争
- 13、『晋書』石勒載記上を読む (9) 劉淵の後継者劉聡と石勒
- 14、『晋書』石勒載記上を読む (10) 石勒の勢力拡大
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

小テスト (1~4、15 回に実施) 20%、発表内容 (5~14 回) 80%

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012 年)。その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

5 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文と現代日本語訳を準備してくるほか、『晋書』載記以外の関連史料も参照して、『晋書』載記の記述と比較検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

東洋史基礎講読 4 単位を既に履修していることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：川合 安 (教授)

講義コード：LB65405, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

『晋書』載記の研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

A study of JINGSHU ZAIJI

3. 授業の目的と概要：

『晋書』載記の研究Ⅰの作業を継続する。Ⅱでは、当該部分の内容に関連する研究論文の調査の比重を高め、先行研究の成果を、現代日本語訳に反映させることを徹底する。最後に、先行研究を批判的に検討した考察を試みて発表する。これらの作業を通じて、漢文読解力の一層の向上と、中国古代中世史研究の具体的方法の習得を目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to become able to handle the Chinese classics as historical materials for research by reading “Zaiji” (載記: records of Wu Hu [五胡: The Five Barbarians]) in “Jing Shu” (晋書: History of Jing).

5. 学習の到達目標：

漢文読解力を向上させ、中国古代中世史の研究方法を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students handle the Chinese classics as historical materials for research.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

『晋書』載記の研究Ⅰに引き続き、『晋書』巻 104 石勒載記上を読み、関連する歴史的事項を調査する。後半に研究発表の機会を設ける。

- 1、ガイダンス、『晋書』載記関連研究論文について
- 2、『晋書』載記関連研究論文検証批判の事例
- 3、『晋書』石勒載記上を読む (1) 石勒、王衍率いる西晋軍を破る
- 4、『晋書』石勒載記上を読む (2) 石勒、王彌を滅ぼす
- 5、『晋書』石勒載記上を読む (3) 石勒と劉琨
- 6、『晋書』石勒載記上を読む (4) 石勒と司馬睿との抗争 (1)
- 7、『晋書』石勒載記上を読む (5) 石勒と司馬睿との抗争 (2)
- 8、『晋書』石勒載記上を読む (6) 石勒、襄国に拠る
- 9、『晋書』石勒載記上を読む (7) 石勒と王浚との抗争
- 10、『晋書』石勒載記上を読む (8) 石勒、鄴を占領
- 11、『晋書』石勒載記上を読む (9) 石勒、石虎を魏郡太守に任命
- 12、『晋書』劉曜載記上を読む (10) 石勒、王浚攻略に着手
- 13、石勒に関する研究発表 (1)
- 14、石勒に関する研究発表 (2)
- 15、授業の総括

8. 成績評価方法：

小テスト (1、2、15 回の授業時に実施) 10%、発表内容 (90%)

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する。

参考書：三崎良章『五胡十六国【新訂版】』(東方書店「東方選書」2012 年)。その他、授業中に紹介する。

10. 授業時間外学習：

3 回目の授業以降、事前に、該当部分の書き下し文、現代日本語訳を作成するほか、関連史料との記述の異同の調査考察、関連研究論文等の調査考察を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

12. その他：

『晋書』載記の研究Ⅰと連続して履修することが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣（教授）

講義コード：LB53503, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

明清史料研究 I

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

中国明清時代の漢文史料読解を通じて、読むための手続き（史料の探し方や辞書・索引の使い方等）を習得する。その上で様々な課題探究に対する基礎知識を得る。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is designed to help students learn how to search for historical materials and how to use dictionaries / index through reading the Chinese historical documents of Ming Qing Period. Then students get basic knowledge on exploring various subjects about Chinese history.

5. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては、同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー

2. 明清史料研究 I - (1)

3. 明清史料研究 I - (2)

4. 明清史料研究 I - (3)

5. 明清史料研究 I - (4)

6. 明清史料研究 I - (5)

7. 明清史料研究 I - (6)

8. 明清史料研究 I - (7)

9. 明清史料研究 I - (8)

10. 明清史料研究 I - (9)

11. 明清史料研究 I - (10)

12. 明清史料研究 I - (11)

13. 明清史料研究 I - (12)

14. 明清史料研究 I - (13)

15. 明清史料研究 I - (14)

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

科目名：東洋史演習／ Oriental History (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣 (教授)

講義コード：LB63502, 科目ナンバリング：LHM-HIS311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：

明清史料研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：

Studies of Ming and Qing historical sources

3. 授業の目的と概要：

卒業論文を作成していく上で基本となる漢文史料読解力を向上させると同時に、扱える中国近世史料の知識を増やし、明清時代史の研究方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will improve the reading skills of historical materials in Ming Qing Period and understand the research method of Early Modern China which is necessary to write a graduation thesis.

5. 学習の到達目標：

内容読解に当たっては同時代人の文集等から関係史料を収集して、理解を深める訓練を行う。受講者は、全員毎回書き下し文を準備し、口頭で発表を行う。日本語を母語としないものは訓読、日本語翻訳どちらで発表してもよい。なお、訓読の場合でも適宜日本語訳について問う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

In reading the text, students collect related historical materials by other contemporaries' writings and train to deepen understanding. Students perform a presentation in every class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンスー史料の背景と工具書の使い方ー
2. 明清史料研究Ⅱー (1)
3. 明清史料研究Ⅱー (2)
4. 明清史料研究Ⅱー (3)
5. 明清史料研究Ⅱー (4)
6. 明清史料研究Ⅱー (5)
7. 明清史料研究Ⅱー (6)
8. 明清史料研究Ⅱー (7)
9. 明清史料研究Ⅱー (8)
10. 明清史料研究Ⅱー (9)
11. 明清史料研究Ⅱー (10)
12. 明清史料研究Ⅱー (11)
13. 明清史料研究Ⅱー (12)
14. 明清史料研究Ⅱー (13)
15. 明清史料研究Ⅱー (14)

8. 成績評価方法：

発表内容 (平常点)

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：

毎回、予習と復習をした上で出席することが必要。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

東洋史基礎講読を履修したか、履修中であることが望ましい。

